

モロッコとの 10年目の 出会い

☆出会いの旅



板 東 慧

（中部大学国際関係学部教授
生活文化研究所長）

「モロッコを旅する」と聞くだけで、多くの友人に「大丈夫か?」と聞かれる。それほど遠く最涯てという感じである。確かに、われわれには地球の反対側の無縫の存在のような先入見があり、戦前の映画「外人部隊」や「モロッコ」を知る人々にとってまさに「地の果て」の感がある。しかし、この国はスペインの地中海をへだてた隣にあり、ロンドンに近い経度、日本と同じ緯度なのである。

この3月、10年ぶりにスペイン・ポルトガル・モロッコを旅した。この地はまだ観光がされていない発見があり、物価も安いし、特にやきものは魅力的であり、家族の希望もあって再び訪れる気になつたのであるが、今回は10年の歳月がどのような変化をもたらしたかという興味も大いにあつた。前回は、スペインを一回りしてアルヘシラスからジブラルタル海峡をわたつてタンジールからはいったのだが、今回は逆にバルセロナからカサブランカへ飛び、マラケシユ・ラバト・マクネス・フェズ・タンジールなどモロッコの古都をまわつて、再びスペインにもどるという逆のコースをとつた。

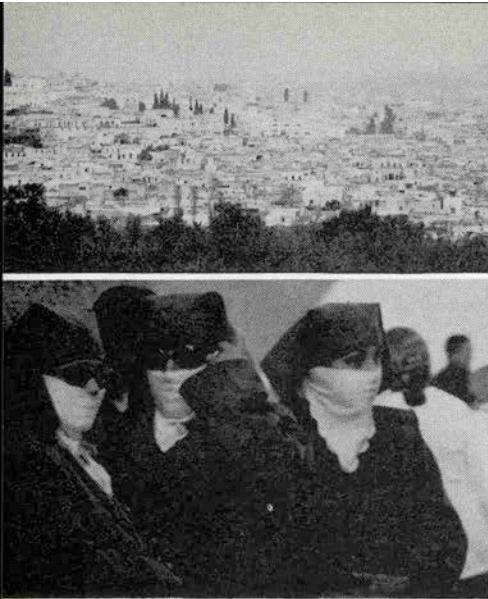
カサブランカは、その名を聞いただけでもあの名画の場面からかもしだす強烈なエキゾティズムをほうふつさせるが、今やそのような香りは少ない近代都市で、日本の商社マンも多く、10年前と比べてもチャドル姿も少なく、ロバの背にゆられる老人もほとんど見かけず、ただ

車が増えたという感じであつた。しかし、官庁の集まる周辺は、濃緑の屋根にクリーム色の壁というモロッコ独特の中高層建築や広場など、途上国特有のモニユメントな巨大空間が構築されていた。カサブランカはタンジールと並んで近代的な港街で、メディナ（旧市街）やカスペ（砦の中の街）はかなり観光化して道もやや広く、青空市場的な感じがある。

ラバトは首都だが、それほど大きな街ではなく、やはり緑の屋根の王宮前広場は近代的で美しい。モロッコは戦後フランス領から独立したが、その時の王であり國祖ともいえるモハメッド5世の柩が横たわる巨大な靈廟もここにあり、その衛兵は騎馬に乗り緑と金の華麗なコステュームを身につけている。この辺りにはやはり黒・赤・緑などの刺繡のある服に、真鍮の容器を沢山ぶらさげた水売りの老人が出没して、水だけでなくカメラにおさまって稼いでいる。現国王ハッサン2世は、父王でもあるモハメッド5世の遺志をつぎ、きわめて開明的で、民主化と産業化をすすめ、治安もよく安定した国にしていひいて土地改造が進んでいるのもその一例といえる。

大アトラス山脈をみながらのマラケシユへの道は、10年前にはガタガタ道だったが、観光道路らしくなつたが、風景はさほど変わっていない。モロッコというとサ

ハラ砂漠の中という感じがあるが、むしろアトラスを越えた国の端からがサハラである。この辺り、乾燥しているので星は暑いが、木陰にはいると涼しく、夜は0度に



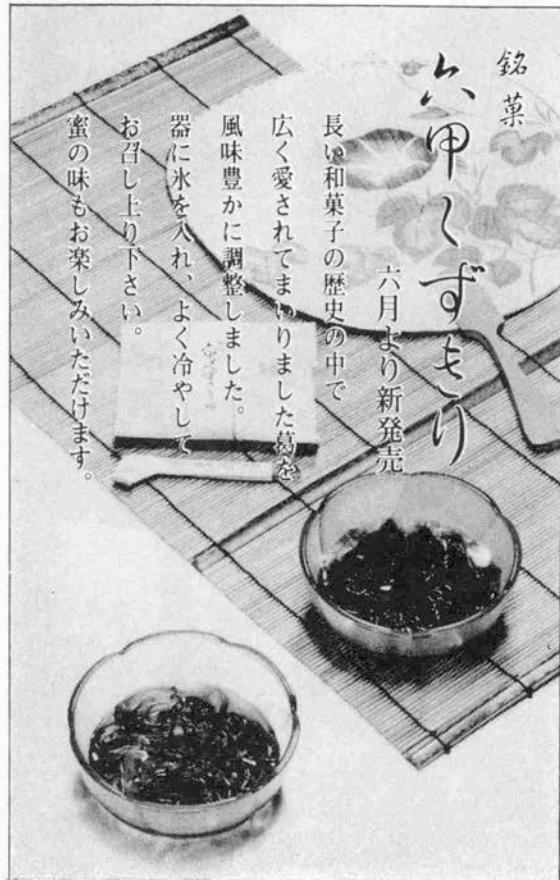
右上／フェズのスク
右下／マラケシュの陶器スク
中／路上のヘビ使い
左上／フェズの街
左下／チャドル姿の女性たち



近くなるほどで、標準気温は日本と変わらず、むしろ凌ぎやすいようである。カフタンなどという裾長の衣装の下にズボンといった服装も、砂漠の下からの熱気と夜の寒さを防ぐためといえば、その合理性も理解できる。マラケシュは、100年前までの首都で、太陽の反射がきついので、壁がすべて茶色になっているのは、カサブランカ（白い家の意味）などとの違いである。ここは遺跡も多いが、何といっても圧巻は、星頃から蛇使いやサハラダンスなど見世物で賑わうジャマ・エル・フナ広場であり、ここから迷路のように拡がるスク（市場）である。スクは皮・陶器・香料・銀・じゅうたんなど職別に集まっている。これに大モスクと門でメジナが形成されている。この辺りは、10年前と全く変わっていない。むしろ1,000年あまり変わっていないというべきだろうか。

フェズの場合には、もっと巨大な迷路が、城壁と城門に囲まれて、さらに歴史の重みを感じさせ、とても案内なしには迷わずに出でこれない感じであり、階下が店となっている家々は3階や5階もあって、1,000年もそのままの形でひしめいている。私は、このような場所は、よく現地人と同じ服装をして歩く。ここでは「サヴァー」いうフランス語で挨拶をかわす。すべて値段はついてなくて、売値より先に買い値をいわされる場合が多い。ひやかしで、交渉途中で他の店に移るというような日本的なやり方をすると、気がついてみたらひやかした各店の5人位が「いくらで買う」と執拗についてきいたこともある。

しかし、タイムトンネルのようなモロッコの旅はやはりしない魅力をもつ。これにクスクスとケバブというモロッコ料理は日本人にもよくあうし、ミント茶もつかれを癒してくれる。観光に力をいれるこの国は、ホテルなども古城もあれば超近代的なものもある。10年目のモロッコとの再会は、確実に次の出会いへの期待をかきたることとなつた。



ちから餅

トーアロード 078(331)3250-3151
11:00AM~19:30PM 水曜日休

神戸肉を進物に

最高級品の黒毛和牛の雌牛のみ扱っております。フレッシュなままで、日本全国へお届けいたします。



午前 8時～午後 6時30分 日・祝は休日

神戸元町



おみやげ、ご贈答用に
名物神戸肉をどうぞ。

辰屋

神戸市中央区元町通1丁目13-19 TEL 331-3016



SCREEN

ロードショー

抽選の上、30名様に、御招待券差し上げます。御希望の方は、シネマガイドまで、葉書をお送り下さい。

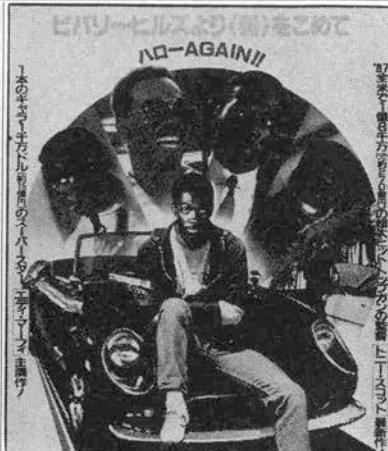
シネマガイド

〒650 神戸市中央区三宮 2-11-1

センタープラザ西館地下

☎ 078-332-4735

●営業時間／10:00AM~7:00PM
(年中無休)



ポリス アカデミー 4

あのお騒せ集団が帰ってくる!! 2年前、初めて全世界にその実態を暴露した「ポリスアカデミー」の面々が、自警団の結成による学園の危機を救うべく、またP・Aに集まつた!!

6月13日公開

神戸ビッグ映劇
221-1388

リーサル ・ウェポン

L A市警内外にその名を轟かすスーパー・コップ。それが「リーサル・ウェポン」 メル・ギブソンとリチャード・ドナーのコンビが贈る、「ダーティーハリー」をも凌ぐハードアクション巨編!!

6月13日公開

朝日会館
331-6361

ビバリーヒルズ コップ 2

3年前、全世界で大ヒットした前作に引き続き、エディ・マーフィ扮する刑事アクセルが、再びビバリーヒルズに帰って来た!

パラマウント映画の創立75周年の目玉として話題騒然!

7月11日公開

国際松竹
221-4476

KOBE MODERN CULTURE



美術



★神戸はじめ物語展

6月6日(土)~7月26日(日)
10時~5時(入館は4時半まで)
市立博物館 一般600円 大学生400円 中小学生300円

一八六八年の開港以後、神戸は欧米文化攝取の窓口になり日本の近代化に大きな役割を果した。映画やゴルフをはじめ、神戸を発祥の地とする新しいものや出来事が数多く誕生している

攝津神戸海岸圖之図



音楽



第2回 最優秀賞 岸本信明

★日本アマチュア・シャンソン・コンクール全国大会

6月19日(金) 18時神戸文化中ホール
10000円 一般公募のアマチュアコンクールとして歌唱力を競うだけでなく、シャンソンのものも大衆性、ファッショニ性なども盛り込み歌う人も聴く人も楽しめる。今回

では、『神戸がはじめて』とされるものを展示し、西洋文化を受け入れて変貌する明治時代の神戸の姿を浮き彫りにする。

★金明姫個展

6月11日(木)~16日(火) ギャラリー1ほか
韓国東洋画と墨絵作家の金明姫さんは一九七五年に

翌年には京都ではじめて個展を開いた。神戸では昨年のシターボシエットに次いで2度目の個展。



古典芸能



第3回 最優秀賞 関根恵理子

★小田イタル&滝えり子

6月17日(水) 18時 ポートビアホーテル催業の間 18000円 前売15000円

兵庫県とフランスの特産品を使用した豪華なディナーを食べながら Swing & Rain・舞・食・響

は世界的に有名なシャンソン歌手シャンル・デュモンを審査員として招く。全国四カ所での地区大会を勝ち抜いたアマチュア歌手三〇人が出演する。

★宮本慶子マリンバ演奏会

6月20日(土) 18時半 神戸文化中ホール 2500円 ベア券400円

マリンバは現代に発達した楽器のため、演奏される作品も全部が現代音楽とい

る。内

外を問わ

え。多くの

作曲家が

マリンバのための音楽を書

いているが、今回はすでに

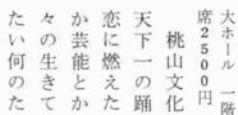
定評のあるいくつかの作品

が、

歌謡伎鑑賞教室「俊寛」

6月12日(金) 11時明石市民会館一階席1500円 二階席1200円

近松門左衛門により人形



第3回 最優秀賞 関根恵理子



第3回 最優秀賞 関根恵理子



演劇

のほか中村茂隆氏によって編曲されたショスター曲「バーニーと打楽器」によって演奏される。曲目はピットファーリードのソナタ、一柳慧の森の肖像ほか。ピアノ・田淵幸三、打楽器・松村初恵

さる。また歌舞伎がはじめて

歴史を持つすぐれた作品。

俊寛僧都に片岡我當丈、海

女千鳥に市村家橋が演ず

る。また歌舞伎がはじめて

いう方の

解説もつ

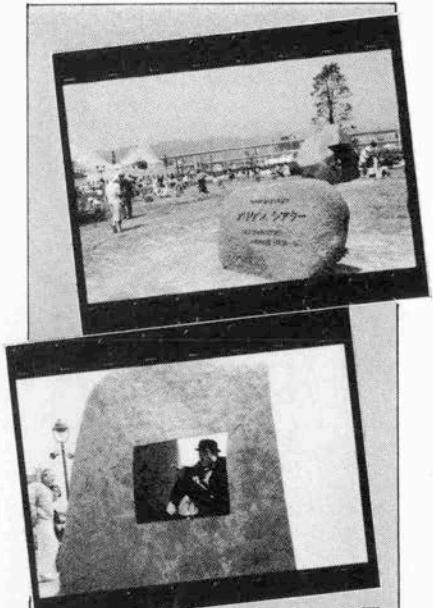
く。

片岡解説もつ

どう考へても「ごわかつた」みたいな

映画上陸記念碑 「メリケンシアタ」

淀川 長治（映画評論家）
除幕式だつたのに



この日の四月二十九日がいつたいたい天氣（晴れ）である
と、いうことを誰が自信を持たれたのであろう。

会場はメリケンパークのみどりの広場。向うは青い
海。あたまの上は青い空。記念碑をとりまくは目にし
るみどりの芝生。

これ、この日、どしゃ降りならどうなさる。これ、こ
の日、春のおわりを告げる大嵐ならどうなさる。
私は東京から馳けつける前の前の晩、ふとんの中で想
像してみた。雨、雨、雨。傘、傘、傘。風、風、風。除
幕の白布がゆれひらめいて、かっこうわるい。雨ならも
つと困る。雨傘が濡れた記念碑とりまいて。これなら葬
式や。

いつたいたい誰がこの日、晴れると自信を持たれたか。え
らい人やなあ。

それが、この日、完ぺきに晴れた。見上げる空に雲も
なく、汗ばむ肌に、海からのそよ風。
だから集まられた、集まられた。会場は見物客でいっ
ぱい。人の波。押しあい、へし合い。

運が強いとはこのこと。よっぽど運が強かつた。家族
連れでいっぱい、その華やかな眼。

まつたく、この日は永久に忘れない。毎年、毎年、こ
の日は忘れない。この記念碑。名づけて“メリケンシア
ター”。来年もさらい年もこの日、そやメリケンシアタ
ーにゆこ。

この日、おぼえがよいのは私たちのえらいお父さまと
同じ誕生日。それだけやない。四月二十九日の二十九日
が活動写真上陸第一歩の明治二十九年の29どころあわ
せですぞ。

明治二十九年に日本に初めて動く写真が輸入されたそ
の映画の歴史は、その年代は、やっぱり映画ファンなら
ずとも“文化の日”とでもいいたいその歴史の貴重なる
年代記号。

この日は除幕とはしゃれましたぜ。

神戸市長の宮崎さんと私が白い手袋をはめ、右と左か
ら同時にテープを切る。げんしゆくのその一瞬。巨石く
りぬいたスクリーンを思わせるこのアイディアの石の記
念碑がサッととびだすその瞬間、アツとびっくり。石を
くりぬいたスクリーンの穴にうずくまるはチャップリン

そつくりのメイキヤップいでたちのこの日。パントマイムを演じる若者。見物人からのいっせいの笑いが、たちまちにしてチャップブリの「街の灯」のファースト・シーンの除幕式にかなつて、よくもまた、しゃれましたね……というスマート・パロディ。この除幕式。

×

やっぱり神戸。市長の演説もスラリやさしく、みんな公園や街の木や花や彫刻を大事にして下さいよの演説のしめくくりまで校長が教え子に言うがごとく、そして



左から、長島隆会長と山口牧生さん、神戸三中仲間である宮崎神戸市長と完成した映画記念碑“メリケンシアター”の前で握手する筆者、小林陸一郎さんと増田正和さん（4月29日メリケンパークにて）

手にした原稿を読みあげるなどという冷さもない。市長と私は同じ中学生（三中）仲間。二人で記念碑のテープを切るこのいんねんがまた私には嬉しい。

除幕の最初に本誌の小泉美喜子さんがマイクに向って「ついに除幕の日がまいりまして……」と言われるその立ち姿に私は“あんたどうとうやりはつたなア”と申したい感激が全身にジーンと流れた。おおげさではない、ほんとにそう思った。小泉さん、よくやつたねえ！

×

それからこの石の記念碑。この石のデザイン。スタア名をきざんだまたの石の置きかた。その石のかたち。これはニューヨークの近代美術館の庭にそつくり持ちこみたいとニューヨーカーはこれを見るやそう思うにちがいない。

×

かたちにはまることは面白くない。といって脱線のゆきすぎは見苦しいし下品だ。この四月二十九日の除幕式は式典のかたちを破り、しかも品位を失わぬ。会長の長島隆さん、そしてこのメリケン・シアターのデザインを生かした山口牧生、小林陸一郎、増田正和の環境造形Qの三氏もこの日この除幕式の前に立たれて、さぞ胸いっぱいのお気持ちになられたことだろう。

私はこの人たちを見つめ“ありがとう”を胸のなかで何度も申したことか。見るからに、やさしそう。見るからに美術の先生の品格。

×

四月二十九日こそはこのメリケン・シアターの誕生日。この昭和六十二年（一九八七）四月二十九日が神戸のカレンダーに、いや日本のカレンダーにとこしえにその祝日をくりかえし迎えるだけでなく、春に夏に秋に冬でさえ、このメリケン・パークのメリケン・シアターで何かと文化的の催し、映画のつどいを持たれるよう。ああ……神戸は……えらいよ……ついにやりましたなあ！

PEOPLE <57>



●手づくりの良さを味わってもらいたい
細井 昭宏さん<レスポワール本店支配人>

元町通りから少し南に入ったところに、この春オープンしたクッキーの館・レスボワール。店内に入ると焼きたてクッキーの甘い香りが漂ってくる。にこやかな笑顔で現われた細井さんは永年営業畠を歩んできて、2年前からレスボワールへ。「ヒット商品を出すのも大事ですが、やはりお客様に“満足”をもって帰っていただくのが一番ですね」と、心のこもったサービスに余念がない。

CONTEST

●海を着こなす。ベスト
ドレッサーズ決定!

今年で6回目を迎えた「神戸ベストドレッサーズ大賞」(ファッション・パーク協賛)が去る4月25日舞子浜ウェザーリボートにて開かれた。今回は

神戸開港120年にちなんで
「海」がテーマ。424名の応募者の中から選ばれた40名が個性豊かなマリンマンスを披露した。また観客の中からもギヤラリ賞が選ばれ、神戸のファッショニズムが海を舞台に花開いた様だった。

TOPICS

●オリエンタルホテルでは、6月5日（金）2階大宴会場において、梓みちよ・ディナーショーを行ります。おとなの方の愛を、時に優しく時に華やかに歌う梓みちよの歌声が、丹念に仕立てたステージ。豪華なディナーの後で過ごす魅力的なひとときをお楽しみください。1部5,000円、2部8,000円、3部10,000円で、一人様￥2,500、000円もしくはディナーショー宿泊プランもあるお一人￥3,000、000円ご予約・お問合せは神戸オリエンタルホテル ☎ 078-331-8111 大宴会場を予約係へ。

●UCC上島珈琲より

「神戸開港120年記念珈琲」を
レギュラーコーヒーでおなじ
みのUCCから、神戸開港120
年祭を記念して『神戸コーヒー』
が開発されました。港神戸の
文明開化の香りが漂う神戸で
育ったコーヒーの代表を10名様
にプレゼント。深い香りと味を
お楽しみ下さい。

●末積製額より

ウッド・フレームを
木の暖かみが伝わってくる優
しい色あいのウッドフレームを
木製積額より 5 名の方にプレゼ
ント致します。お部屋のイメー
ジチェンジに、親しい人へのプ
レゼントに…。シックなフレー
ムはどんな絵にもよくマッチし
ます。

PRESENT CORNER

応募方法●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町133-1 大阪ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百貨店会場アレゼンツ係までご応募下さい。店舗印まで有効です。当選者は神戸っ子から選ばれ選葉書を発送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りに出かけ下さい。

●本格的なフランス料理が味わえるレストラン・プラン、プランもある(お一人￥300、000)ご予約・お問合せは神戸オリエンタルホテルTEL 78・331・8111 好きな予約係へ。

★ファッション公開講座

'87秋冬物ヨーロッパ・アメリカ最新情報

ファッション界の
地殻変動に注目を

講師 立龜 長三<ナクトアトリエ社長>



立龜長三氏

4月27日、恒例のファッション公開講座が開かれた。円高が深刻化の一途をたどる世界経済界。ファッション界の世界地図は、果たしてどんな様相を呈しているだろうか。

「今年気をつけたいのは“変化”です。生産と物流・消費者と消費・商品のそれぞれ、変化に注目していく下さい。つまり、どういうことなのかということを、これから、スライドを見ながら説明しましょう。

今年3月、ドイツでもパリでも目に付いた色は、コントラストも鮮やかな黒と白のモノクローム、あるいはモノ

トーン。縞はニットが横、織物は縦でターゲットは働く女性です。ブラウスもパフォーマンス、お洒落をするために、オーバーブラウスで、カーディガンなど着ません。男も女も、働く人間は、上着を脱ぐ季節には、名刺や手帳が入る胸ポケットが必要です。今年はキャリアウーマンの縞のシャツと、マリンルックの縞が、突然クロスしたというわけです。

'87秋冬物は、バリエーション豊富な茶色と、黑白で、テーマはキャリアです。形は長方形か逆台形。上着を長くスカートはミニ。寒ければスパッツをはく。今年はパンツが流行します。

さて、DCブランド一辺倒の時代は終りました。高感度でも高価格のものは、今や売れなくなった。メリットがないからです。そこで登場したのがニューDCブランドと言われるもので、まだ名の売れていないデザイナーの卵の作品で、これがよく売れているんで

●新入会員

大久保静江

<社団法人日本洋装協会
兵庫県支部 支部長>

(社)日本洋装協会兵庫県支部の会員さんを募ったり、多種に御力添えを頂いている紳士服の中島副会長のお勧めで、此度K.F.S.に入会できましたことを深く感謝いたしております。今後共、宜しく御指導賜りますようお願い申上げます。



●6月のマンスリーサロン

パネルディスカッション

日時 6月19日(金)午後6:30

場所 神戸市勤労会館

2階和室1、2号室

す。“クーカイ”などのブランドがそうです。高感度低価格でないと、消費者は買わなくなつたんですよ。

DCブランドというのは元々、金のない洋裁学校の生徒が、将来デザイナーになりたいためのキャラクターの売場のことなんです。DCブランドとは神戸で言えば、高架下なんですよ。

同様に、今よく売れているのがメイド・イン・スペインのものです。デザインでも素晴らしいものがあります。

ものの流れが変わってきました。世界的に消費者の考え方も、変わって來たんです。特に、働く女性が増えて來た現代、高感度・低価格がポイントなんです。今日お越しの皆さんも、この点に留意して、ファッション界をリードして行って下さい。」

びつと・いん



★ 本格的ライブハウスで

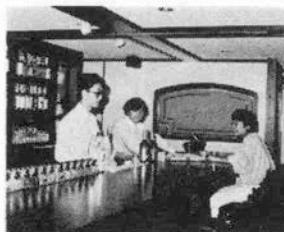
サウンドショック

3月20日にオープンのバ

ラティアムは、ヤングアダルト向けのライブ・トレンド・ディスコ。外人バンドによるライブの迫力はさすが! 今ヒット中の曲も聴けるから最高。その上料金は男性3500円、女性3000円のチケット制で分かりやすいシステム。バーボンやウイスキー等が、気軽に楽しめる。キープは600円から。スマートサーモ



今宵はビートの波に酔って



バーボンタイムはここで

★ お好きなスタイルで
ムーディなバーボンタイム
いま話題の苦楽園の外車

■ 中央区中山手通1-13-7 神戸下ビルB1 6:00 PM 3:00 AM

無休 ☎ 391-6640

■ 西宮市深谷町10-26 Aビルディング

2F ☎ 0798-72-4139

00:00-24:00無休

ムードが楽しめるバーボン
メインのバーだから、雨の
日だってウキウキ。

★ 正統派が集う

アダルトバーがオープン

ウイスキーと男との、素敵な関係を追い求める
サントリー・ジガーバー・エスブリになる。落ち着いたウッディスベース。ゆつたりとした空間。店の中央

に据えられたハーレーダビッドソンは、気品すら感じさせる。

サントリー角が1ジガ-500円。ハイボール1923、が500円等。お奨め料理はスペイシー・ベーコン600円、蒸鶏とキムチ700円、黒豚のキムチ炒め600円等。



本物のウイスキーに出会える

● 神戸うまいもん とドリンク

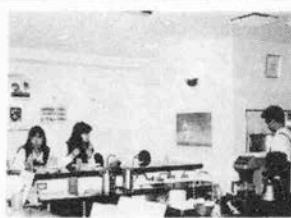
ナイスティ・カレー・バ
ガネーシャ

中央区磯上通8-1-8
232-0354

11:30 AM-8:00 PM
祝は休

ナイスティ・カレー・バ
ガネーシャ

中央区下山手通2
神戸ワシントンホテル1F
平日11:30 AM-4:00 PM
祝11:30 AM-4:00 PM
無休 ☎ 39



白が基調の明るい店内

ン、生ハム、シーフードグ
ラタン等のナックの他、
オリジナルメニューも準備
中とか。

ブランクのシャツで決めた4
人のバーテンダーが、各自
オリジナルカクテルを持っ
ている。自由に、いろんな

、生ハム、シーフードグ
ラタン等のナックの他、
オリジナルメニューも準備
中とか。

ブランクのシャツで決めた4
人のバーテンダーが、各自
オリジナルカクテルを持っ
ている。自由に、いろんな



本物のウイスキーに出会える

■ 中央区下山手通2
神戸ワシントン
ホテル1F 平日11:30 AM-4:00 PM
祝11:30 AM-4:00 PM
無休 ☎ 39

■ ビーフカレー、ベジタブルカ
レーとも、L600円、M50
0円、S400円、ツケモノ50
円、オリジナルパン100円

■ こころの歳時記

心に残る 友人たちの 送る言葉



左より大谷晃世社長／西沢暉さん／山本芳樹さん＜畠田／神戸飯店にて＞

先輩のときおされたのはこ子鳥の
ごあいさつがよかったです。葬儀が
全体に上手くいっているなと思う
のに最後のあいさつを葬儀屋の方
にされるとどうもよくなかった。
第三の方の美辞麗句より涙ながらの
がとうございましたとのひと言の
方が生きますよ。

西沢　弔辞が印象深いですね。ただ、僕達が聞いた中であまり長いとシラケますね。三人位がいい。六七十人となるとちょっと多い。山本　先日、山陽電鉄の先輩の葬儀の時、写真がひどかった。ムリヤリ紋付を着せている。ところが川端教授のは自然のラフな平常の写真でとても親しみやすい。先輩のとき救われたのはご子息

山本弔辞の言葉が胸に残ることが多いですね。先日は急に神戸大学の川端柳太郎教授が亡くなられて、素晴らしい弔辞があり、おん柄がしのばれて涙しましたな。

ら外れることありますか。結婚式は色々バラエティがあって。大谷お葬儀で一番印象に残るとはどんなことでしょう。

クリスチヤンで栄光教会でした
が、兄が僕にあいさつをというの

で、短いけれど母の思い出を一つ
いれてございきつしました。スラ
スラも良くない（笑）。木村坦の
土蔵の土蔵の土蔵、神吉所で

社長の社葬のときは、神戸商大クリーククラブの創設者だったので、校歌を始めとして学生に合唱して

もらい、退場するときも校歌を歌つてもらつて…とても良かった。
大谷 一つの演出ですね。

山本 この頃は故人をしのぶとい
うので音楽と語りを入れますね。

西沢 僕は必ず入りますし、その原稿を僕が取材して書きますね。

西沢　スライドと共にナレーションをやります。日電ガラス瓶株の会長のときも故人の足跡が分かっ

山本 お葬儀屋さんの上手にやら
れるのはハハナれど、ちよつと馬
てよかつた。

鹿丁寧な敬語が多いのもかえって嫌味ですね。

西沢 我々の方がザックバルーンに
 言いやすい。僕は台本も書きます。
大谷 それでは又今後共ご協力下
 さい。

全葬連認定「葬祭専門士」資格取得者

大谷徳風社
徳風社
大谷晃世

全国斎祭事業協同組合
神戸葬祭事業協同組合理事
神戸市規格葬儀取扱指定店理事
本社／神戸市長田区松野通1-11-12

鈴蘭台支店 / 078-592-5485

全葬連認定葬祭専門士資格取得者
株式会社 大谷徳風社
大谷晃世
大谷徳風社
全国葬祭事業協同組合
神戸市規格葬儀取扱指定店理事
本社／神戸市長田区松野通1-11-12
078-6211-0089
鈴蘭台支店／078-5921-5485

吉支店/078-592-5485

吉支店／電 078-592-5485

8

神戸・発見

軒上泊

PART⁶

カメラ 池田年夫

（作家）



前もって編集部のほうから、

「どの辺りへ行かれますか？」

と訊かれて、しばらく考えたあげく、

「和田岬の辺りへ行きたいですね」

と答えた。

べつにたいした理由はなかった。

まだ一度も行ったことがなかったのと、もう二

十年前も前に、村から神戸へ通勤していた時期があ

つて、その頃、列車が兵庫駅の手前まで来ると、

「和田岬線に乗り換える方は……」

その放送を聴きながら、ただなんとなく、一度

あの線に乗り換えてみたいと思っていたのだった

しかし、朝はもちろん、そんな回り道を楽しむ

時間的な余裕はないし、仕事が終わってからの帰

りは、なにしろ、村まで二時間もかかるので、早

く家へ帰ってのんびりしたいという気持ちのほう

が強かった。そのため、とうとう、一度も和田岬

線に乗ることなく一年が過ぎてしまったのだ。

高校を出た二年目からは大学の夜間部へ通い始

めたので、五年経つたら村へ戻るという約束で、

た。

それが先日、

「どの辺りへ行かれますか？」

と訊かれて、

「和田岬線に乗り換えるの方は……」

突然、そんな車内放送を思い出したのだから少

しは不思議だ。

ぼくの場合はその程度の理由で腰を上げること

ができる。

そんなわけで、二十年前と同じように、村の駅から列車に乗って神戸へ出かけた。

四月下旬のとても天気のいい日で、昼下がりのローカル線は客の姿もまばらだ。列車の速度も車

内の雰囲気もじつにのんびりして、窓からぼんやり外を見ている、ぼくの頭の中はほとんど空っぽみたいなものだ。もう少し付け加えると、誰かがどんな話題を出してこようと、びくともしないような空っぽだったといえる。

もちろん、ぼくはその状態を喜んでいた。なんだか余生を生きてるみたいな気がして、とても落ち着きがよかつた。二十年前に通勤していた頃は少し違っていたからだ。当時は本など一冊も読んだことがなく、読みたいとも思わなかつたので、この時と同じようにぼんやり窓の外を見ていた。だけど、ひと月が経ち、ふた月が経つにつれて、少しずつ頭が重たくなりかけてきたのだった。

つまり、四十歳になつても、五十歳になつてもこうやって、村から神戸まで通勤しているのかなあ、と思ったのだ。そうするとちょっとといな気がして、たとえしばらくでも生活を変えてみたいと思つたのだ。そのことの結果が、大学の夜間部へ通うことであり、五年間だけ村を離れて一人住



JR西日本和田岬駅。その建築はちょっと独特の様式でどことなく感じられるハイカラ・ロマンティックな気分を誇ってくれたりもがした。

まいをすることだった。
そして、そのことがおそらく、いまこんな文章を書いていることにもつながってきたのだから、これもまた少々不思議な気もする。



兵庫駅から和田岬線に乗り換えると、終着駅の和田岬駅までは六分で着いてしまう。そのふたつの駅のあいだにはひとつも駅がないのだ。しかも、時刻表によると、和田岬線は朝夕に数本ずつしか列車が運転されていない。つまり、終着駅の辺りで働く人たちのための通勤列車になつてているようだ。

じつさい、その辺りは、観光名所のひとつにあげられているわけではない。出かける前から、ぼくも、造船の仕事をしている人々の労働現場といつたイメージを抱いていた。それでもなお、一度行つてみたい所として心に残つていたのだった。

和田岬駅へ着いたのは夕方の五時前だった。駅は小さかつたが、その建築はちょっとと独特の様式をしていた。もうかなり古い建物で、天井が高く

どことなく感じ
られるハイカラ

だから、この時も、この程度のことだけつこう
楽しんでいたのだ。

趣味が、ロマン
ティックな気分
を誘ってくれた
りもした。

夕方の五時半
までは列車がな
いので、駅には

乗客の姿は一人
もなく、駅員が
待合室へひしゃ
くで水を撒いて

いた。そういう
駅のホームや
待合室に水が撒
かれていた。そな
ことなど思い出し

て、待合室に水が撒
かれていた。そな
ことなど思い出し
て、待合室

のだ。
改札口を抜けてホームへ入ると、線路の両側に
は民家が並んでいた。その界隈はよくある下町の
風景といった感じで、特別変わったようなものは
何も見当たらない。それが逆にうれしくて、しば
らくホームに立って辺りをきょろきょろ見回して
いた。

そういえば、ぼくがしてきた旅はたいていがそ
んな具合だった。どこの街へ行つても、ただ街な
かをぶらぶら歩き回る程度で、その街が目玉商品
にしているような場所や、イベントのたぐいを覗
きに行つたことは一度もない。



25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

には幅広の直線道路が走っていて、まずまずのカーアクションができるなくらいの長さだ。

じっさい、ドラマの舞台に使えそうな気もした。今度来た時は一日中、倉庫の壁にでももたれて陽なたぼっこをしようと思った。だけど、そんな状態で浮かんでくるドラマはどんなストーリーになるのだろうか。

ひとつのさびれた終着駅と、工場地帯をかたちづくっているひとつの岬、そして、陽ざしの中の港を海側から見渡すことができるひとつの波止場――。

おそらく、主人公は、いかにこみいつた街なかへ入って行こうと、そこに、ミステリアスな何かを見い出しにくい年齢になつてているのはたしかだ。そして、ヒロインは、波立つていた荒さが次第におちつきを見せはじめ、そろそろ、さざ波めいたリズムを刻む季節へ移りかけたところだろう。

二人は、どんなドラマツルギーを展開するのだろう。

また詳細は定かではないが、仮りのタイトルはこんな風にしとくか。

「終着駅からはじまる」

大人の男と女のラブ・ストーリーには、港街のありふれた一画がとても似合つていそうな気がする。

「なんでもいいからはっきりしたものが見たくて、私は、街灯に照らされた窓外の波止場へ焦点を絞った。黒っぽい夜の海が低い波を立て、波の鳞の先には、ドック入りした外国船のタンカーが見えた。そのタンカーの真向かいには、港めぐりの小船が発着するターミナルがあるはずだ。十数年前、そう言えは、何度か港めぐりの船に乗った覚えがある。一周三十分ほどのさやかな航海だったが、隣にいる女のせいで、結構楽しかったことを覚えている。数年後に別れるはめになるとは思っていなかったが、一生付き合う相手だと決めていたわけでもなかった。」筆者著『べっぴんの町』より。

